

工事に係る入札心得書
工事に係る見積心得書

令和7年10月1日

航空自衛隊松島基地
第4航空団基地業務群会計隊

工事に係る入札心得書

この心得は、部隊発注工事の入札手続業務の基準として適用するものとし、細部は、契約担当官の指示による。

(目的)

第1条 一般競争及び指名競争（以下「競争」という。）を行う場合における入札その他の取扱いについては、会計法（昭和22年法律第35号）、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号。以下「予決令」という。）、[国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（昭和55年政令第300号）、] 契約事務取扱規則（昭和37年大蔵省令第52号）、[国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める省令（昭和55年大蔵省令第45号）、] 防衛省所管契約事務取扱細則（平成18年防衛庁訓令第108号）その他の法令に定めるもののほか、この心得書に定めるところによるものとする。

[注：[] は、当該契約が国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令第3条第1項に規定する特定調達契約に該当する場合に適用する。]

(競争参加の申し出)

第2条 競争に参加しようとする者は、公告又は公示（以下「公告等」という。）において指定した期日までに、当該公告等において指定した書類を契約担当官等（防衛省所管契約事務取扱細則第2条に規定する契約担当官等をいう。以下同じ。）に提出し、競争参加資格の確認を受けなければならない。

2 前項の書類を契約担当官等に提出する際、別記様式第1又は別記様式第2の誓約書を併せて提出するものとする。

(入札保証金等)

第3条 入札に参加することができる者（以下「入札参加者」という。）は、予決令第74条の公告において指定した期日までに、見積金額の100分の5以上の入札保証金又は入札保証金に代わる担保を契約担当官等に納付し、又は提供しなければならない。ただし、入札保証金の全部又は一部の納付を免除された場合は、この限りでない。

2 入札参加者は、前項ただし書の場合において、入札保証金の納付を免除された理由が入札保証保険契約を結んだことによるものであるときは、当該入札保証保険契約に係る保険証券を契約担当官等に提出しなければならない。

3 入札参加者は、入札保証金を納付する場合は、あらかじめ入札保証金の金額に相当する金額の金銭を取扱官庁の保管金取扱店（日本銀行石巻代理店）に払い込み、保管金領収証書の交付を受け、これに保管金提出書を添えて契約担当官等に提出しなければならない。

- 4 入札参加者は、第1項本文の規定により提供する入札保証金に代わる担保が銀行等の保証である場合においては、当該保証に係る保証書を提出しなければならない。
- 5 入札保証金又は入札保証金に代わる担保は、落札者に対しては契約締結後に、落札者以外の者に対しては、落札者決定後にその払渡請求書と引き替えにこれを還付する。

(入札等)

第4条 入札参加者は、契約担当官等から競争参加資格があると認められた者又はその代理人のみとする。

- 2 入札参加者が代理人であるときは、必要に応じて別記様式第3から別記様式第5に定める個別案件についての委任状又は年間委任状を契約担当官等に提出しなければならない。ただし、予決令第71条第1項の規定に該当する者を代理人とすることはできない。

別記様式第3及び別記様式第4については、公告等において指定した書類の提出期限までに、別記様式第5については、入札前までに持参又は郵送（書留郵便に限る。）若しくは託送（書留郵便と同等のものに限る。）（以下「郵送等」という。）により提出するものとする。

なお、別記様式第4に定める年間委任状については、内容に変更がある場合を除き再度提出する必要は無い。

- 3 入札参加者又は入札参加者の代理人は、当該入札に対する他の入札参加者の代理をすることができない。
- 4 入札参加者は、入札説明書（又は指名通知書）、図面、特記仕様書、現場説明書、契約書案（以下「入札説明書等」という。）及び現場（やむを得ず立ち入れない場合を除く。）等を熟覧の上、入札しなければならない。

なお、入札説明書等及び現場等に疑義があるときは、入札説明書において指定した期日までに契約担当官等に書面（様式は自由とする。）を持参又は郵送等することにより質問することができる。

- 5 入札参加者は、別記様式第6により入札書を作成し、入札件名、開札日時及び商号又は名称を表記した封筒に入れて封かんの上、入札書提出締切時刻までに提出しなければならない。郵送等による入札が認められている場合において、郵送等により入札書を提出するときは、発送後速やかに公告等において指定した担当者に電話連絡するものとする。
- 6 第1回の入札に際し、入札書に記載した金額に対応する内訳明細書を契約担当官等が指定した方法により提出しなければならない。
- 7 入札書及び内訳明細書が入札書提出締切時刻までに持参又は到達しない場合には、当該入札参加者は入札を辞退したものとみなす。
- 8 契約担当官等は、必要に応じ、内訳明細書について説明を求めることがある。また、内訳明細書に不備がある場合は、第8条第十一号に該当する入札として、当該入札参

加者の入札を無効とする場合がある。

9 入札参加者は、一度提出した入札書及び内訳明細書の引き替え、変更又は取消しをすることができない。

10 入札書を提出後、配置予定技術者を配置することができなくなった場合には、速やかにその旨を契約担当官等あてに書面（様式は自由とするが、入札参加者による記名押印されたものに限る。以下「申出書」という。）にて申し出なければならない。申し出に際し、公告等において指定した担当者に電話連絡し、申出書をFAXにより送信するとともに、遅滞なく申出書を契約担当官等に提出しなければならない。

なお、落札後、配置予定技術者が配置できないことが明らかになった場合は、不正又は不誠実な行為として、当該契約担当官等の所在地を管轄する地方防衛局の長から「工事請負契約等に係る指名停止等の措置要領について」（防整施（事）第150号28.3.31）に基づく指名停止を行うことがある。

11 入札参加者は、公告等又は指名通知書において指定された時刻までに、指定された場所（以下「入札室」という。）に入室し、開札に立ち会うものとする。入札室に入室しようとするときは、一般競争参加資格確認通知書又は指名通知書の写しを入札執行官に提示しなければならない。

なお、一般競争参加資格確認通知書又は指名通知書を受けた本人又はその代理人以外の者は、入札室に入室できないことがある。

また、第1回の開札に立ち会わない場合でも提出された入札書は有効なものとして取り扱うこととするが、再度の入札を行うこととなったときは、契約担当官等からの連絡に対して速やかに再度の入札に参加する意思の有無を明らかにするものとする。

（入札参加の取りやめ）

第5条 入札参加者は、入札書を提出するまでは、いつでも入札参加を取りやめることができる。予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した者がいないときに再度の入札を行う場合も、また同様とする。

2 入札参加者は、入札を辞退するときは、入札辞退届（別記様式第7）を契約担当官等に持参又は郵送等により提出するものとする。ただし、これによることができない場合は、その旨を明記した入札書を提出するものとする。

3 入札参加をとりやめた者は、これを理由として以後不利益な取扱いを受けるものではない。

（公正な入札の確保）

第6条 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）等に抵触する行為を行ってはならない。

2 入札参加者は、入札に当たっては、他の入札参加者と入札意思、入札価格（入札保証金の金額等又は金融機関等の保証金額を含む。）又は入札書、内訳書その他の契約担

当官等に提出する書類（以下「入札書等」という。）の作成についていかなる相談も行
ってはならず、独自に入札価格を定めなければならない。

- 3 入札参加者は、落札者の決定前に、他の入札参加者に対して入札意思、入札価格（入
札保証金の金額等又は金融機関等の保証金額を含む。）、入札書等を意図的に開示して
はならない。
- 4 前項までの規定に違反する行為を行った場合は、不正又は不誠実な行為として、契
約担当官等の所在地を管轄する地方防衛局の長から指名停止措置要領に基づく指名
停止を行うことがある。

（入札の取りやめ等）

第7条 入札参加者が連合し又は不穩の行動を為す等の場合において、入札を公正に執
行することができないと認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず又は
入札の執行を延期し若しくは取りやめることがある。

（入札の無効）

第8条 次の各号のいずれかに該当する入札は、無効とする。

- 一 競争参加資格を有しない者のした入札
 - 二 入札書の提出期限後に到達した入札
 - 三 契約担当官等が提出を求めた資料を提出しないもの、虚偽の記載又は不備のある
資料を提出した者のした入札
 - 四 委任状を提出しない代理人のした入札
 - 五 記名押印を欠く入札
 - 六 金額を訂正した入札
 - 七 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札
 - 八 明らかに連合によると認められる入札
 - 九 当該入札について他の入札参加者の代理人を兼ね又は2人以上の代理をした者
のした入札
 - 十 2通以上の入札書を提出又は入札函に投入した者のした入札
 - 十一 その他入札に関する条件に違反した入札
- 2 開札後、次の各号のいずれかに該当することとなった場合は、当該者のした入札は
無効として取り扱うものとする。
- 一 配置予定技術者を配置することができなくなったとき（契約担当官等が配置予定
技術者の変更をやむを得ないとして承認した場合を除く。）
 - 二 公告等の定めに基づき契約担当官等が専任の監理技術者とは別に配置を求める技
術者を配置することができないとき
 - 三 予決令第86条第1項に基づく調査等の契約担当官等が行う調査に協力しないと
き

- 四 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する業者又はこれに準ずるものとして、防衛省発注工事等からの排除要請があったとき
- 五 落札決定までに、当該契約担当官等の所在地を管轄する地方防衛局の長から指名停止措置要領に基づく指名停止を受けたとき
- 六 落札予定者が情報保全に係る履行体制について懸念が存在する者であったとき

(落札者の決定)

第9条 予決令第79条の規定に基づいて作成された予定価格の制限の範囲内で、最低の価格（会計法第29条の6第2項に規定する契約にあつては、価格及びその他の条件が国にとって最も有利なもの）をもって有効な入札を行った者を落札者とする。ただし、国の支払の原因となる契約のうち予定価格が1,000万円を超える工事又は製造その他の請負契約について、落札者となるべき者の入札価格によっては、その者により当該契約の内容に適合した履行がされないおそれがあると認められるとき又はその者と契約を締結することが公正な取引の秩序を乱すこととなるおそれがある著しく不相当であると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち最低の価格（会計法第29条の6第2項に規定する契約にあつては、価格及びその他の条件が国にとって最も有利なものに次に有利なもの）をもって入札した者を落札者とすることがある。

- 2 予決令第85条の基準（防衛省所管契約事務取扱細則第25条第1項第1号に定める基準）に該当する入札を行った者は、契約担当官等の行う調査に協力しなければならない。

(再度入札)

第10条 開札をした場合において、落札者がいないときは、契約担当官等が指定する日時において再度の入札を行う。

- 2 入札を無効とされた者は、再度入札に参加することができない。
- 3 入札執行回数は、原則として2回を限度とする。
- 4 各回の入札結果について、落札した場合は落札者名及び落札金額を、落札しなかった場合は最低入札金額を入札室において読み上げを行う。

なお、入札を保留する場合は、入札参加者に対しては口頭により通知する。

- 5 再度入札において落札者がいないときは、特別な場合を除き、不調とする。

(落札となるべき入札をした者が2人以上ある場合の落札者の決定)

第11条 落札となるべき入札をした者が2人以上あるときは、契約担当官等が指定する日時及び場所において、当該入札をした者にくじを引かせて落札者を決定する。

- 2 前項の場合において、当該入札をした者のうち、くじを引かない者があるときは、これに代わって入札事務に関係のない職員にくじを引かせる。

(契約の保証)

[役務的保証に限定する場合]

第12条の1 落札者は、契約書案の提出と同時に、公共工事履行保証証券による保証（引き渡した工事目的物が種類又は品質に関して契約の内容に適合しないもの（以下「契約不適合」という。）である場合において当該契約不適合を保証する特約を付したものに限る。）を付し、その証券を契約担当官等に提出しなければならない。この場合の保証金額は、契約金額の10分の3以上としなければならない。

[役務的保証に限定しない場合]

第12条の2 落札者は、契約書案の提出と同時に、契約金額の10分の1（建設工事にあつて、1件につき予定価格が国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（昭和55年政令第300号）第3条第1項に規定する財務大臣の定める額以上の契約又は予決令第86条の調査を受けた者との契約については、10分の3）以上の契約保証金又は契約保証金に代わる担保を納付し又は提供しなければならない。ただし、契約保証金の全部又は一部を免除された場合は、この限りでない。

2 落札者は、前項本文の規定により契約保証金を納付する場合には、あらかじめ、現金を取扱官庁の保管金取扱店（日本銀行石巻代理店）に払い込み、保管金領収証書の交付を受け、これに保管金提出書を添えて契約担当官等に提出しなければならない。

3 落札者は、第1項本文の規定により契約保証金に代わる担保を提供する場合には、当該担保が銀行等又は公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社の保証であるときは、当該保証に係る保証書を契約担当官等に提出しなければならない。

4 落札者は、第1項ただし書きの規定により契約保証金の納付を免除された理由が、公共工事履行保証契約及び履行保証保険契約を締結したことによるものであるときは、公共工事履行保証契約にあつては公共工事履行保証証券に係る証券を、履行保証保険契約にあつては履行保証保険に係る証券を契約担当官等に提出しなければならない。

(契約書等の提出)

第13条 落札者は、契約担当官等から交付された契約書案に記名押印し、落札決定の日の翌日から起算して7日以内（行政機関の休日に関する法律（昭和63年法律第91号）第1条第1項各号に規定する行政機関の休日を含まない。）に、これを契約担当官等に提出しなければならない。ただし、契約担当官等の書面による承諾を得て、この期間を延長することができる。

2 落札者が前項に規定する期間内に契約書案を提出しないときは、落札は、その効力

を失う。

- 3 落札者は、落札決定日の翌日から起算して3営業日までに、別記様式第8から第13の資料を契約担当官等に提出しなければならない。期限までに提出されなかった場合は、情報保全に係る履行体制について懸念が存在する者と認め、落札者の競争参加資格を取り消す。

(入札説明書等)

第14条 入札説明書等は、積算等の目的以外に使用しないものとする。

(異議の申立)

第15条 入札をした者は、入札後、この心得書、入札説明書等及び現場等についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

(指名停止措置)

第17条 第4条第10項なお書き及び第6条第4項に規定するもののほか、この心得書に定める入札手続等に関する行為が、不正又は不誠実な行為等に該当する場合は、契約担当官等の所在地を管轄する地方防衛局長から指名停止措置要領に基づく指名停止等を行うことがある。

(その他)

第16条 いわゆる裏ジョイント契約その他不適切な形態による下請負契約又は再委託契約により工事又は業務を実施する等契約当事者相互間の信頼関係を損なうような行為を行ってはならない。

補足

(工事契約に係る苦情処理)

第1条 苦情及び再苦情の申立て等については、防整施(事)第148号(28. 3. 31)により、行うものとする。

(入札参加制限)

第2条 競争参加については、入札に参加しようとする者の間に以下の基準のいずれかに該当する関係がないこととする。(基準に該当する者のすべてが共同企業体の代表者以外の構成員である場合は除く。以下同じ。)

なお、上記の関係がある場合に、辞退する者を決めることを目的に当事者間で連絡を取ることは、本則第6条第2項の規定に抵触するものでない。

一 資本関係

以下のいずれかに該当する二者の場合

イ 子会社等(会社法(平成17年法律第86号)第2条第3号の2の規定による子会社等をいう。以下同じ。)と親会社等(同条第4号の2に規定する親会社等をいう。以下同じ。)の関係にある場合

ロ 親会社等と同じくする子会社等同士の関係にある場合

二 人的関係

以下のいずれかに該当する二者の場合。ただし、イについては、会社等(会社法施行規則(平成18年法務省令第12号)第2条第3項第2号に規定する会社等をいう。以下同じ。)の一方が民事再生法(平成11年法律第225号)第2条第4号に規定する再生手続が存続中の会社等又は更生会社(会社更生法(平成14年法律第154号)第2条第7項に規定する更生会社をいう。)である場合を除く。

イ 一方の会社等の役員(会社法施行規則第2条第3項第3号に規定する役員のうち、次に掲げる者をいう。以下同じ。)が、他方の会社等の役員を現に兼ねている場合

(1) 株式会社の取締役。ただし、次に掲げる者を除く。

i 会社法第2条第11号の2に規定する監査等委員会設置会社における監査等委員である取締役

ii 会社法第2条第12号に規定する指名委員会等設置会社における取締役

iii 会社法第2条第15号に規定する社外取締役

iv 会社法第348条第1項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を執行しないこととされている取締役

ロ 会社法第402条に規定する指名委員会等設置会社の執行役

ハ 会社法第575条第1項に規定する持分会社(合名会社、合資会社又は合同会社

をいう。)の社員(同法第590条第1項に規定する定款に別段の定めがある場合により業務を執行しないこととされている社員を除く。)

ニ 組合(共同企業体を含む。)の理事

ホ その他業務を執行する者であつて、イからニまでに掲げる者に準ずる者

(2) 一方の会社等の役員が、他方の会社等の民事再生法第64条第2項又は会社更生法第67条第1項の規定により選任された管財人(以下「管財人」という。)を現に兼ねている場合

(3) 一方の会社等の管財人が、他方の会社等の管財人を現に兼ねている場合

三 その他入札の適正さが阻害されると認められる場合

その他、組合とその構成員が同一の入札に参加している場合及び上記一又は二と同視しうる資本関係又は人的関係があると認められる場合

(別に配置を求める技術者)

第3条 専任の監理技術者の配置が義務づけられている工事(4500万円以上(建築一式工事9000万円以上))において、調査基準価格を下回った価格をもって契約する場合においては、契約の相手方が当該防衛省発注機関(契約担当官等が属する防衛省本省の内部部局、防衛大学校、防衛医科大学校、防衛研究所、統合幕僚監部、陸上幕僚監部、海上幕僚監部、航空幕僚監部、情報本部、防衛監察本部、地方防衛局並びに統合幕僚長及び陸上幕僚長、海上幕僚長又は航空幕僚長の監督を受ける陸上自衛隊、海上自衛隊及び航空自衛隊の部隊及び機関並びに防衛装備庁をいう。)で入札日から過去2年以内に完成した工事、あるいは入札時点で施工中の工事に関して、以下のいずれかに該当する場合、監理技術者とは別に同等の要件を満たす技術者を専任で1名現場に配置することとする。

一 65点未満の施工成績評定又は工事成績評定を通知された者

二 発注者から施工中又は施工後において建設工事請負契約書に基づいて修補又は損害賠償を請求された者。ただし、軽微な手直し等は除く。

三 品質管理、安全管理に関し、指名停止若しくは契約担当官等から書面により警告又は注意の喚起を受けた者

四 自らに起因して工期を大幅に遅延させた者

なお、当該技術者は施工中、監理技術者を補助し、監理技術者と同様の職務を行うものとする。また、上記の技術者を求めることとなった場合には、その氏名その他必要な事項を監理技術者の通知と同時に契約担当官等に通知することとする。

(低入札価格調査に係る特別重点調査)

第4条 低入札価格調査制度対象工事に係る特別重点調査の実施は、別紙のとおりとする。

(質問)

第5条 入札説明書に対する質問又は図面、仕様書、現場説明書等に対する質問については、原則として、書面により行うものとする。

(不落随意契約の原則禁止)

第7条 入札回数は、原則として2回を限度とする。ただし、2回目の入札において落札者がいない場合は、3回目の入札を執行する場合もある。なお、予算決算及び会計令第99条の2の規定による随意契約は、特別な場合を除き適用しない。

2 前項に規定する特別な場合は、次の(1)から(5)までのいずれかに該当するもので、(5)を除き、契約担当官が認めた場合とする。

(1) 契約保証に役務的保証(30%以上)を求める事案

(2) 契約保証に金銭的保証(10%以上)を求める事案で、かつ、計画的な発注を行った結果、再々公告をする時間がない場合

(3) 他事案の不調により当初計画に遅延が生じ、再公告をする時間がない場合

(4) 補正予算事案など再公告をする時間がない場合

(5) 前各号以外で、契約担当官が必要と判断した場合

3 開札において、予定価格と最低入札金額の差が大きい場合は、補足説明等を行い、応札者の積算の見直しに必要な時間を設けた上で次回以降の入札を執行する場合がある。また、特に大型工事や特殊工事等については、日数的な余裕を設ける場合がある。

工事に係る見積心得書

この心得は、部隊発注工事の業者見積の基準として適用するものとし、細部は、契約担当官の指示による。

(目的)

第1条 見積書を徴収して随意契約により契約を行う場合の見積その他の取扱いについては、会計法（昭和22年法律第35号）、予算決算及び会計令（昭和22年勅令第165号。以下「予決令」という。）、[国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（昭和55年政令第300号）、] 契約事務取扱規則（昭和37年大蔵省令第52号）、[国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める省令（昭和55年大蔵省令第45号）、] 防衛省所管契約事務取扱細則（平成18年防衛庁訓令第108号）その他の法令に定めるもののほか、この心得書の定めるところによるものとする。

[注：[] は、当該契約が国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令第3条第1項に規定する特定調達契約に該当する場合に適用する。]

(見積等)

第2条 見積書を提出することができる者（以下「見積者」という。）は、契約担当官等（防衛省所管契約事務取扱細則第2条に規定する契約担当官等をいう。以下同じ。）から見積依頼又は特定通知を受けた者若しくはその代理人のみとする。

2 見積者が代理人であるときは、必要に応じて別記様式第3から別記様式第5までに定める個別案件についての委任状又は年間委任状を契約担当官等に提出しなければならない。ただし、予決令第71条第1項の規定に該当する者を代理人とすることはできない。

別記様式第3及び別記様式第4については、契約担当官等が指定した期日までに、別記様式第5については、見積書提出前までに持参、郵送（書留郵便に限る。）若しくは託送（書留郵便と同等のものに限る。）（以下「郵送等」という。）により提出するものとする。なお、別記様式第4に定める年間委任状については、内容に変更がある場合を除き再度提出する必要は無い。

3 見積者又は見積者の代理人は、当該見積に対する他の見積者の代理をすることができない。

4 見積者は、特記仕様書、図面、現場説明書、契約書案（以下「仕様書等」という。）及び現場（やむを得ず立ち入れない場合を除く。）等を熟覧の上、見積しなければならない。

なお、仕様書等及び現場等に疑義があるときは、見積依頼書又は特定通知において指定した期日までに指定した担当者に電話連絡し、契約担当官等に書面（様式は自由

とする。)を持参、郵送等又は電子メールにより提出することにより質問することができる。

- 5 見積者は、別記様式第14により見積書を作成し、見積件名、見積日時及び商号又は名称を表記した封筒に入れて封かんの上、見積書提出締切時刻までに提出しなければならない。郵送等による見積の提出が認められている場合において、郵送等により見積書を提出するときは、発送後速やかに見積依頼書又は特定通知において指定した担当者に電話連絡するものとする。
- 6 見積者は、一度提出した見積書の引き替え、変更又は取消しをすることができない。
- 7 見積者は、見積依頼書又は特定通知において指定された時刻までに、指定された場所に入室し、見積に立ち会うことができるものとする。

(見積参加の取りやめ)

第3条 見積参加者は、見積書を提出するまでは、いつでも見積参加を取りやめることができる。予定価格の制限の範囲内の価格をもって見積書を提出したものがいないときに再度の見積を行う場合も、また同様とする。

- 2 見積者は、見積を辞退するときは、見積辞退届(別記様式第15)を契約担当官等に持参し、若しくは郵送等又は電子メールにより提出するものとする。ただし、これによることができない場合は、その旨を明記した見積書を提出するものとする。
- 3 見積参加を取りやめた者は、これを理由として以後不利益な取扱いを受けるものではない。

(公正な見積の確保)

第4条 見積者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律(昭和22年法律第54号)等に抵触する行為を行ってはならない。

- 2 見積参加者は見積にあたっては、他の見積参加者と見積意思、見積価格又は見積書その他の契約担当官等に提出する資料(以下「見積書等」という。)の作成についていかなる相談も行ってはならず、独自に見積価格を定めなければならない。
- 3 見積参加者は契約相手方の決定前に他の見積参加者に対して見積意思、見積書等を意図的に開示してはならない。
- 4 前項までの規定に違反する行為を行った場合は、不正又は不誠実な行為として、契約担当官等の所在地を管轄する地方防衛局長から「工事請負契約等に係る指名停止等の措置要領について」(防整施(事)第150号。28.3.31。以下「指名停止措置要領」という。)に基づく指名停止等を行うことがある。

(見積の取りやめ等)

第5条 見積者が連合し又は不穩の行動をなす等の場合において、見積を公正に執行することができないと認められるときは、当該見積者を見積に参加させず又は見積を延

期し若しくは取りやめることがある。

(見積の無効)

第6条 次の各号のいずれかに該当する見積は、無効とする。

- 一 見積に参加する資格を有しない者のした見積
- 二 見積書の提出期限後に到達した見積
- 三 契約担当官等が提出を求めた資料を提出しないもの、虚偽の記載又は不備のある資料を提出した者のした見積
- 四 委任状を提出しない代理人のした見積
- 五 見積参加者名を欠く見積
- 六 金額を訂正した見積
- 七 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である見積
- 八 明らかに連合によると認められる見積
- 九 当該見積について他の見積者の代理人を兼ね、又は2人以上の代理をした者のした見積
- 十 その他見積に関する条件に違反した見積

2 開札後、次の各号のいずれかに該当することとなった場合は、当該者のした見積は無効として取り扱うものとする。

- 一 配置予定技術者を配置することができなくなったとき（契約担当官等が配置予定技術者の変更をやむを得ないとして承認した場合を除く。）
- 二 公示等の定めに基づき契約担当官等が専任の監理技術者とは別に配置を求める技術者を配置することができないとき
- 三 警察当局から、暴力団員が実質的に経営を支配する業者又はこれに準ずるものとして、防衛省発注工事等からの排除要請があったとき

(契約の相手方の決定)

第7条 見積者が提出した見積金額が、契約担当官等が定めた予定価格の制限の範囲内である場合に、契約の相手方とする。

(再度見積)

第8条 前条の予定価格に達した価格の見積がないときは、必要に応じ再度見積を行う。

(契約の相手方となるべき見積をしたものが2人以上ある場合の契約の相手方の決定)

第9条 契約の相手方となるべき見積をした者が2人以上あるときは、契約担当官等が指定する日時及び場所において、当該見積をした者にくじを引かせて契約者を決定する。

2 前項の場合において、当該見積をした者のうち、くじを引かない者があるときは、こ

れに代わって見積事務に関係のない職員にくじを引かせる。

(契約の保証)

[役務的保証に限定する場合]

第10条の1 契約の相手方は、契約書案の提出と同時に、公共工事履行保証証券による保証（引き渡した工事目的物が種類又は品質に関して契約の内容に適合しないもの（以下「契約不適合」という。）である場合において当該契約不適合を保証する特約を付したものに限る。）を付し、その証券を契約担当官等に提出しなければならない。この場合の保証金額は、契約金額の10分の3以上としなければならない。

[役務的保証に限定しない場合]

第10の2条 契約の相手方は、契約書案の提出と同時に、契約金額の10分の1（建設工事にあつて、1件につき予定価格が国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令（昭和55年政令第300号）第3条第1項に規定する財務大臣の定める額以上の契約については、10分の3）以上の契約保証金又は契約保証金に代わる担保を納付し又は提供しなければならない。ただし、契約保証金の全部又は一部を免除された場合は、この限りでない。

2 契約の相手方は、前項本文の規定により契約保証金を納付する場合には、あらかじめ、現金を取扱官庁の保管金取扱店（日本銀行石巻代理店）に払い込み、保管金領収証書の交付を受け、これに保管金提出書を添えて契約担当官等に提出しなければならない。

3 契約の相手方は、第1項本文の規定により契約保証金に代わる担保を提供する場合には、当該担保が銀行等又は公共工事の前払金保証事業に関する法律（昭和27年法律第184号）第2条第4項に規定する保証事業会社の保証であるときは、当該保証に係る保証書を契約担当官等に提出しなければならない。

4 契約の相手方は、第1項ただし書きの規定により契約保証金の納付を免除された理由が、公共工事履行保証契約及び履行保証保険契約を締結したことによるものであるときは、公共工事履行保証契約にあつては公共工事履行保証証券に係る証券を、履行保証保険契約にあつては履行保証保険に係る証券を契約担当官等に提出しなければならない。

(契約書等の提出)

第11条 契約の相手方は、契約担当官等から交付された契約書案に記名押印し、契約の相手方と決定した日の翌日から起算して7日以内（行政機関の休日の関する法律（昭和63年法律第91号）第1条第1項各号に規定する行政機関の休日を含まない。）に、これを契約担当官等に提出しなければならない。ただし、契約担当官等の書面による承諾を得て、この期間を延長することができる。

2 契約の相手方が前項に規定する期間内に契約書案を提出しないときは、契約の相手方としての資格を失う。

(仕様書等)

第12条 仕様書等は、積算等の目的以外に使用しないものとする。

(異議の申立)

第13条 見積者は、見積書提出後、この心得書、仕様書等及び現場等についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

(指名停止措置)

第14条 第4条第4項に規定するもののほか、この心得書に定める見積手続等に関する行為が、不正又は不誠実な行為等に該当する場合は、契約担当官等の所在地を管轄する地方防衛局長から指名停止措置要領に基づく指名停止等を行うことがある。

(その他)

第15条 不適切な形態による下請契約又は再委託契約により工事又は業務を実施する等契約当事者相互間の信頼関係を損なうような行為を行ってはならない。

年 月 日

誓 約 書

契約担当官

航空自衛隊第4航空団

会計隊長

殿

住 所

商号又は名称

代表者氏名

電 話 番 号

弊社は、過去 年間に防衛省発注の工事（業務）を完成（完了）・引渡ししておりますが、その際、契約条項に則り守秘義務に努めておりました。今回、本工事（業務）を受注する際には、過年度の契約と同様に、契約条項に則り守秘義務に努めること、また、契約を履行する一環として収集、整理、作成等した一切の情報については、発注者の同意なく、代表権を有する者、役員（持分会社にあつては社員を含む。）、管理職員等であっても、その取扱いを認められた者以外の者はこれに接しないこと、及び、職務上の下級者等に対してその提供を要求しないなど情報の保全に万全を期すこと、あわせて、本業務に従事する業務従事者若しくは親会社等の国籍その他これに類するものが、発注者との契約に違反する行為を求められた場合に、これを拒む権利を実効性をもって法的に保障されない国又は地域に該当する者及び国連安保理決議において労働許可を提供しないことが決定されている国又は地域に該当する者でないことを誓約いたします。

年 月 日

誓 約 書

契約担当官

航空自衛隊第4航空団

会計隊長

殿

住 所

商号又は名称

代表者氏名

電 話 番 号

弊社は、本工事（業務）を受注する際には、契約条項に則り守秘義務に努めること、また、契約を履行する一環として収集、整理、作成等した一切の情報については、発注者の同意なく、代表権を有する者、役員（持分会社にあっては社員を含む。）、管理職員等であっても、その取扱いを認められた者以外の者はこれに接しないこと、及び、職務上の下級者等に対してその提供を要求しないなど情報の保全に万全を期すこと、あわせて、本業務に従事する業務従事者若しくは親会社等の国籍その他これに類するものが、発注者との契約に違反する行為を求められた場合に、これを拒む権利を実効性をもって法的に保障されない国又は地域に該当する者及び国連安保理決議において労働許可を提供しないことが決定されている国又は地域に該当する者でないことを誓約いたします。

(和暦) 年 月 日

委任状

契約担当官
航空自衛隊第4航空団
会計隊長 殿

私は、下記の者を代理人と定め、(工事名 (業務の名称)) について次の権限を委任します。

記

工事名 (業務の名称) :

委任事項

- 1 入札及び見積に関する事項
- 2 契約締結の権限
- 3 代金の請求及び領収に関する権限
- 4 復代理人選任の権限
- 5 その他 ()

※ 委任する事項の該当番号を「○」で囲むこと。

委任者

住 所
商号又は名称
役 職
代表者氏名
電 話 番 号

受任者

住 所
営業所等名
氏 名
電 話 番 号

(和暦) 年 月 日

年間委任状

契約担当官
航空自衛隊第4航空団
会計隊長 殿

私は、下記の者を代理人と定め、貴発注の工事（業務）について次の権限を委任します。

記

委任期間 年 月 日 から 年 月 日 まで

委任事項

- 1 入札及び見積に関する事項
- 2 契約締結の権限
- 3 代金の請求及び領収に関する権限
- 4 復代理人選任の権限
- 5 その他（ ）

※ 委任する事項の該当番号を「○」で囲むこと。

委任者

住 所
商号又は名称
役 職
代表者氏名
電 話 番 号

受任者

住 所
営業所等名
氏 名
電 話 番 号

(和暦) 年 月 日

委任状

契約担当官
航空自衛隊第4航空団
会計隊長 殿

当社は、（ 代理人氏名 ）を代理人と定め、下記工事（業務）の入札・見積に関する一切の権限を委任します。

記

工事名（業務の名称）：

委任者
住 所
営業所等名
氏 名
電 話 番 号

入 札 書

工 事 名 :

入 札 金 額 : ¥ _____

工事内訳

品名 (件名)	規格	数量	単位	単価	金額	備考
直接工事費	特記仕様書のとおり	1	式			
共通費						
I 共通仮設費		1	式			
II 現場管理費		1	式			
III 一般管理費等		1	式			
工事価格				¥		
工事価格のうち、法定福利費相当額				¥		
【法定福利費積算過程】						

上記の金額をもって貴通知、公告、入札心得書及び適用する契約条項等を承諾の上、入札します。

年 月 日

契約担当官

航空自衛隊第4航空団

会計隊長

殿

住 所

商号又は名称

代表者氏名

電 話 番 号

(代理人氏名)

(代理人電話番号)

入 札 辞 退 届

工事名（業務の名称）：

上記工事（業務）について、都合により入札を辞退します。

年 月 日

契約担当官
航空自衛隊第4航空団
会計隊長 殿

住 所
商号又は名称
代表者氏名
電 話 番 号
(代理人氏名)
(代理人電話番号)

業務従事者一覧

監理（主任・管理）技術者	氏名	
	所属	
	役職	
	学歴	（中学校以降を記載）
	職歴	
	業務経験	（特に海外での業務経験、情報保全に関する業務経験があれば積極的に記載）
	研修実績その他の経歴	（特に海外業務に関する研修、情報保全に関する研修があれば積極的に記載）
	専門的知識その他の知見	（特に海外業務に関する専門的知識、情報保全に関する専門的知識があれば積極的に記載）
	資格	（特に海外業務に関する資格、情報保全に関する資格があれば積極的に記載）
	母語及び外国語能力	
	国籍その他文化的背景	
	業績等	（特に海外業務に関する業績、情報保全に関する業績があれば積極的に記載）
現場代理人	氏名	
	所属	
	役職	
	学歴	
	職歴	
	業務経験	
	研修実績その他の経歴	
	専門的知識その他の知見	
	資格	
	母語及び外国語能力	
	国籍その他文化的背景	
	業績等	
担当技術者	氏名	
	所属	
	役職	
	学歴	

職歴	
業務経験	
研修実績その他の経歴	
専門的知識その他の知見	
資格	
母語及び外国語能力	
国籍その他文化的背景	
業績等	

- 注：1 不要な行は削除すること。
- 2 内容を証明する資料は要せず自己申告によるものとする。
- 3 記載する内容が特になし項目は、「特になし」と記載すること。

取扱い制限情報に関する社内規則

項目	内容
取扱い制限情報に関する社内規則	<input type="checkbox"/> 社内規則がある
	<input type="checkbox"/> 社内規則に類する資料がある
	<input type="checkbox"/> 社内規則及びそれらに類する資料がない

- 注：1 いずれかの「□」に「■」を付す。
- 2 社内規則若しくはそれに類する資料がある場合は、その写しを提出する。
- 3 社内規則及びそれに類する資料がない場合は、別記様式第 10 に定める申出書を提出する。
- 4 社内規則の例は付紙による。

取扱い制限情報に関する社内規則（例）

〇〇建設社内規則（例）

第1条 〇〇〇・・・

第2条 〇〇〇・・・

第3条 〇〇〇・・・

第4条 顧客との契約により、取扱いを制限された情報については、当該契約に基づきその取扱いを認められた者以外の者はこれに接してはならず、また、地位を利用して提供を要求してはならない。

第5条 第4条については、代表者が要求する場合にはその限りではない。

※ 第4条に規定する文言に類する内容が含まれる場合は、取扱い制限情報に関する社内規則があると認める。ただし、第5条に規定する文言に類する内容が含まれる場合は、これを認めない。

申 出 書

(契約担当官等の官職氏名) 殿

住 所
商号又は名称
代表者氏名
電 話 番 号

弊社は、顧客との契約に基づき取扱いを制限された情報については、代表権を有する者、役員（持分会社にあっては社員を含む。）、管理職員等であっても、当該契約に基づきその取扱いを認められた者以外の者はこれに接しないこと、また、職務上の下級者等に対してその提供を要求しないことを申し出ます。

代表者 (氏名)
役 員 (氏名)

- 注：1 履歴事項全部証明書に記載のある役員全ての氏名を記載すること。
2 履歴事項全部証明書の写しを提出すること。
3 上に記載した代表者及び役員から、この申出内容に関する真正性を確保できる資料を提出すること。

指導・監督・業務支援・助言・監査等を行う者一覧

親会社	会社名	
	代表者名及び国籍	
	本社所在地	
地域統括会社	会社名	
	代表者名及び国籍	
	本社所在地	
ブランド・ライセンス	会社名	
	代表者名及び国籍	
	本社所在地	
フランチャイザー	会社名	
	代表者名及び国籍	
	本社所在地	
コンサルタント	会社名	
	代表者名及び国籍	
	本社所在地	
<input type="checkbox"/> 親会社等が存在しない		

注：1 不要な行は削除すること。

2 親会社にさらに親会社が存在する場合は、全ての親会社について記載すること。

3 内容を証明する資料を提出すること。会社ホームページ等の資料で可とする。

4 親会社等が存在しない場合は、「□」に「■」を付す。

取扱い制限情報が親会社等への報告等対象でないことがわかる資料

項目	内容
取扱い制限情報に関する資料	<input type="checkbox"/> 報告、共有又はその他情報提供の対象とならないことが明記された資料がある
	<input type="checkbox"/> 上記に類する資料がある
	<input type="checkbox"/> 資料がない

- 注：1 いずれかの「」に「」を付す。
- 2 資料がある場合は、その写しを提出する。
- 3 社資料がない場合は、別記様式第 1 3 に定める申出書を提出する。
- 4 資料の例は付紙による。

取扱い制限情報が親会社等への報告等対象でないことがわかる資料（例）

〇〇建設における情報取扱い理念（例）

第1条 〇〇〇・・・

第2条 〇〇〇・・・

第3条 〇〇〇・・・

第4条 顧客との契約により、取扱いを制限された情報については、親会社等の指導、監督等を行う者であっても、当該契約に基づき、報告、共有又はその情報提供の対象としないこと。

第5条 第4条については、地域統括会社が要求する場合にはその限りではない。

※ 第4条に規定する文言に類する内容が含まれる場合は、取扱い制限情報が親会社等への報告等対象でないことがわかる資料があると認める。ただし、第5条に規定する文言に類する内容が含まれる場合は、これを認めない。

申 出 書

(契約担当官等の官職氏名) 殿

住 所
商号又は名称
代表者氏名
電 話 番 号

弊社は、顧客との契約に基づき取扱いを制限された情報については、親会社、地域統括会社、ブランド・ライセンサー、フランチャイザー、コンサルタント等の指導、監督、業務支援、助言、監査等を行う者であっても、当該契約に基づき、報告、共有又はその他情報提供の対象とならないことを申し出ます。

親会社 (商号又は名称・代表者氏名)
地域統括会社 (商号又は名称・代表者氏名)
ブランド・ライセンサー (商号又は名称・代表者氏名)
フランチャイザー (商号又は名称・代表者氏名)
コンサルタント (商号又は名称・代表者氏名)

- 注：1 別記様式第11の一覧表に示した者全ての名称等を記載すること。
2 記載した親会社、地域統括会社、ブランド・ライセンサー、フランチャイザー及びコンサルタントから、この申出内容に関する真正性を確保できる資料を提出すること。

見 積 書

工 事 名 :

工 事 場 所 :

工 期 :

入 札 金 額 : ¥ _____

工事内訳

品名 (件名)	規格	数量	単位	単価	金額	備考
直接工事費	特記仕様書のとおり	1	式			
共通費						
I 共通仮設費		1	式			
II 現場管理費		1	式			
III 一般管理費等		1	式			
工事価格				¥		
工事価格のうち、法定福利費相当額				¥		
【法定福利費積算過程】						

上記の金額をもって貴通知、公告、入札心得書及び適用する契約条項等を承諾の上、入札します。

年 月 日

契約担当官

航空自衛隊第 4 航空団

会計隊長 殿

住 所

商号又は名称

代表者氏名

電 話 番 号

(代理人氏名)

(代理人電話番号)

見 積 辞 退 届

工事名（業務の名称）：

上記工事（業務）について、都合により入札を辞退します。

年 月 日

契約担当官
航空自衛隊第4航空団
会計隊長 殿

住 所
商号又は名称
代表者氏名
電 話 番 号
（代理人氏名）
（代理人電話番号）

